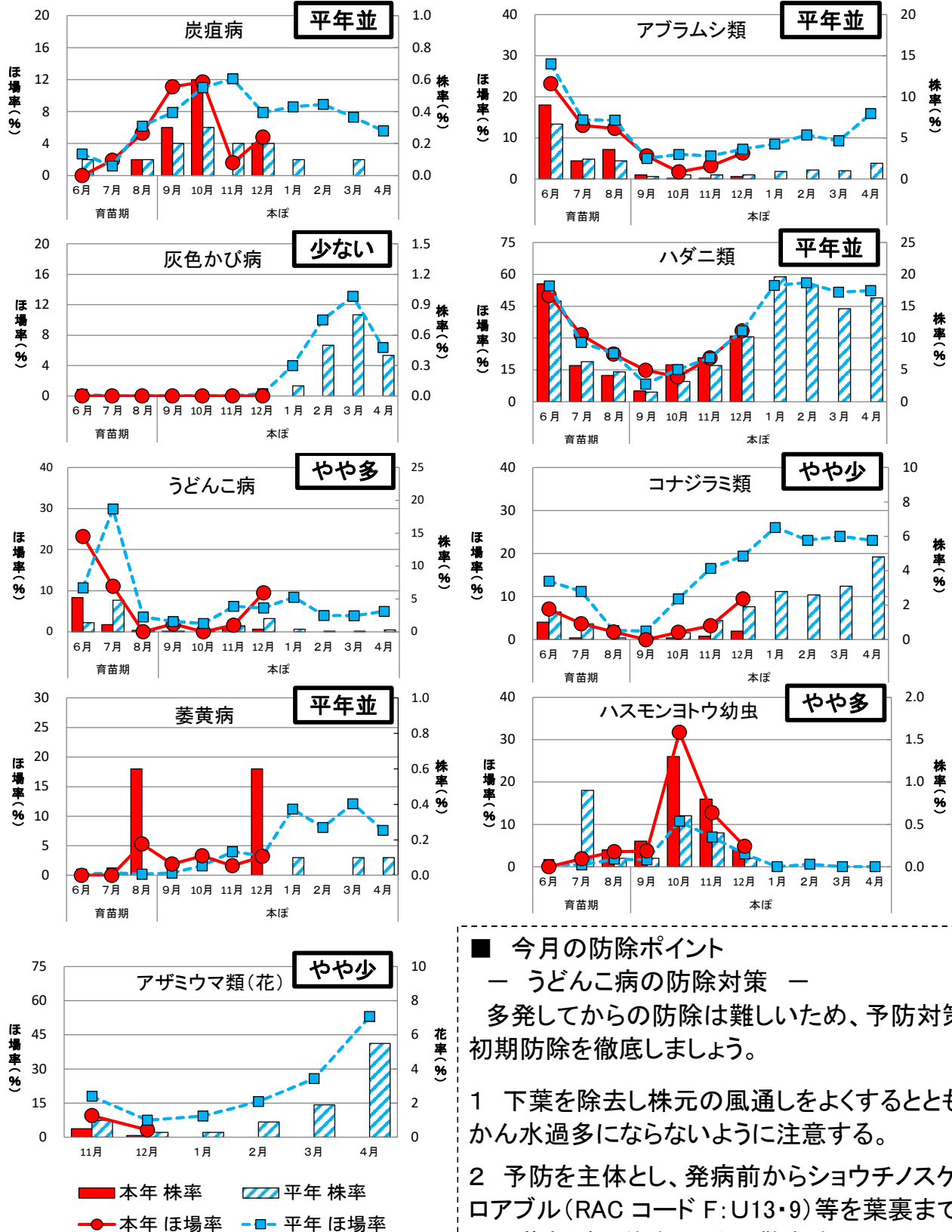


いちご病害虫情報第7号（12月）

令和7（2025）年12月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63 か所】



※ほ場あたり25株調査
 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株
 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー うどんこ病の防除対策 ー

多発してから防除は難しいため、予防対策と初期防除を徹底しましょう。

- 1 下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- 2 予防を主体とし、発病前からショウチノスケフロアブル(RACコードF:U13・9)等を葉裏まで十分に薬剤が付着するように散布する。
- 3 紫外線(UV-B)の照射は、本病の発生抑制に効果的である。

■ 今月のトピックス 灰色かび病

被害症状について

主に果実に発生し、がく、果梗、葉、葉柄など地上部のあらゆる組織を侵します（写真1～3）。はじめ淡褐色の病斑を生じ、急速に拡大して果実を軟化腐敗させ、表面に灰色粉状のカビを密生します。病斑上に形成される分生子（写真4）が飛散して、空気伝染し、蔓延します。

本病は、気温が20℃前後で湿度が高い場合に発生しやすく、施設内の多湿、朝夕の冷えこみによる植物体の結露が発生を助長します。また、例年1月頃から発生し始め、3月に最も発生が多くなる傾向があるため、日頃からほ場内をよく観察し、発生を見逃さないように注意しましょう。

防除対策について

- 多湿条件で発生しやすいので、下葉を除去し株元や果房の風通しをよくする。
- かん水過多に注意する。
- ハウス内が多湿にならないように換気に努める。
- 発病した果実や果梗、枯死した部位は伝染源となるので、ほ場を良く観察し、見つけたら速やかに取り除き、施設外で処分する。
- とちあいかの栽培において、芽数を多く残すと内側に伸びやすいため、花房を外側に向け、果実が取り残されないように注意する。
- 薬剤耐性菌が発生しやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。薬剤選定の際には、[薬剤感受性検定結果](#)を参照する。

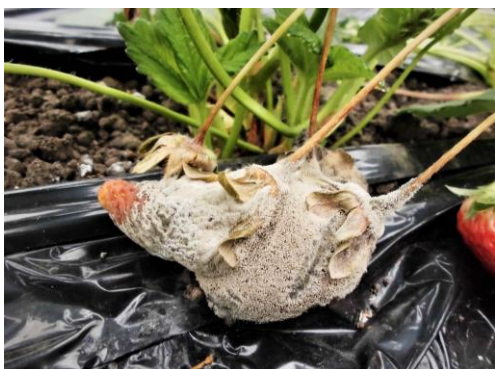


写真1 果実・がくの症状



写真2 果梗の症状



写真3 葉柄基部の症状



写真4 分生子

詳細は、環境技術指導部防除課（Tel028-665-1244）までお問合せ下さい。病害虫情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。

